

公開実用 昭和63- 123448

④日本国特許庁 (JP)

①実用新案出願公開

②公開実用新案公報 (U)

昭63- 123448

⑤Int.Cl.⁴

B 65 D 30/08

識別記号

序内整理番号

8208-3E

③公開 昭和63年(1988)8月11日

審査請求 有 (全頁)

④考案の名称 多重構造の鏡体

⑤実 願 昭62-15952

⑥出 願 昭62(1987)2月5日

⑦考 案 者 高 橋 一 峰 東京都渋谷区神宮前6丁目26番1号 獅子頭麦酒株式会社内

⑧出 願 人 獅子頭麦酒株式会社 東京都渋谷区神宮前6丁目26番1号

⑨代 理 人 弁理士 佐藤 一雄 外2名

明細書

1. 考案の名称

多重構造の袋体

2. 実用新案登録請求の範囲

少くとも1つの内袋とこの内袋を包封している外袋とからなり、これら内袋及び外袋は各々内容物を充填又は取出すための開口部を有することを特徴とする多重構造の袋体。

3. 考案の詳細な説明

〔考案の目的〕

(産業上の利用分野)

本考案は多重構造の袋体に係り、特に内袋と外袋を備え2種類以上の内容物を充填及び取出しうける多重構造の袋体に関する。

(従来の技術)

一般に、流体状の内容物を充填及び取出しうける袋体は単一の開口部を有し、この開口部から内

公開実用 昭和63- 123448

容物の取出し及び充填が行なわれるようになって
いる。

近年、折りたたみ可能なプラスチック袋または容器を、外装用段ボール箱の中に入れ、液体の輸送・保管に使用する形式の包装をバッグインボックス（Bag In Box）と称し、従来のガラス壜、タンク、ブリキ缶などに比べ、軽くて丈夫で輸送・保管に便利でコストが安価なため多く使用されている。最近は、柔軟な単体フィルムやラミネートフィルムを2枚以上重ねたり、複合フィルムを使用することによって、耐圧性、耐薬品性などに優れた製品が出始め液体食品をはじめ、工業薬品など各種分野への適用が考えられている。そして、このバッグインボックスのバッグも、通常、上述の袋体と同様に单一の開口部を有するように形成されている。

（考案が解決しようとする問題点）

しかしながら、上述の袋体、特にバッグインボックスのバッグにおいては1袋に同時に1種類の内容物しか収容できないという問題点がある。

本考案は、上述した事情に鑑み創案されたもので、その目的とする処は、1袋に同時に2種類以上の内容物を充填し、且つ効率的に取出しできる多重構造の袋体を提供することにある。

(問題点を解決するための手段)

上述した問題点を解決するため本考案は、少なくとも1つの内袋とこの内袋を包囲している外袋とからなり、これら内袋及び外袋は各々内容物を充填又は取出すための開口部を有することを特徴とするものである。

(作用)

本考案は上記手段により、内袋及び外袋にそれぞれ内容物を充填することができ、例えば2種類以上の内容物を1個の袋体から取出すことができる。また、内袋にのみ流体状の内容物を充填した状態で外袋に加圧流体(気体又は液体)を充填してゆけば内袋を加圧状態にでき、内袋の内容物を取出すことができ、或るいは外袋に充填後、内袋を加圧することでも取出しできる。さらに、内袋に保温又は保冷したい内容物を充填し、外袋に断

公開実用 昭和63- 123448



熱効果の高い物質を充填して内袋の内容物を保温又は保冷することもできる。また、外袋に気体を充填すれば内袋の内容物のクッションとしても有効である。

(実施例)

以下、本考案に係る多重構造の袋体の一実施例を第1図乃至第3図を参照して説明する。

第1図はバッグインボックス用の多重構造の袋体の縦断面図、第2図は平面図、第3図は第2図のⅢ-Ⅲ線に沿う断面図である。

本実施例の多重構造の袋体は2重構造からなり、この袋体1は内袋2と、この内袋2を包囲している外袋4と、これら内袋2及び外袋4にそれぞれ設けられた内容物の充填又は取出し用の開口部を構成する口金3、5とからなっている。

上記内袋2及び外袋4はポリエチレン等のプラスチックフィルムを素材とした若干内径の異なる筒状フィルムを用意して多重筒を構成し、この筒状フィルムの両開口端をヒートシーラーなどで加熱接着して封着部2a、4aを形成して袋体とし



たものである。そして、内袋2への口金3の取付けは、内袋2及び外袋4のフィルム2枚を貫通する孔を設けこの貫通孔に口金3を挿入して口金3の下部フランジ3fにフィルム2枚を重ねて加熱接着することにより行う。また、外袋4への口金5の取付けは、同様に外袋4のフィルムを貫通する孔を設けこの貫通孔に口金5を挿入して口金5の下部フランジ5fにフィルムを重ねて加熱接着することにより行う。

次に、第4図乃至第6図を参照して本考案の他の実施例を説明する。

本実施例は、内袋2及び外袋4の両開口端を重ね合わせて同時に加熱接着したものである。その他の構成は第1図乃至第3図の実施例と全く同様である。

次に、第7図乃至第9図を参照して本考案の更に他の実施例を説明する。

本実施例は第4図乃至第6図の実施例と異なる点は内袋2及び外袋4が両開口端だけでなく一側端2S(4S)が加熱接着されていることと口金

公開実用 昭和63- 123448



が一体となった点である。即ち、一体構造の口金10は内袋2に接着される下部フランジ11と、外袋4に接着される上部フランジ12とを有し、又、互いに隔離された内袋用開口13と外袋用開口14とを有している。

一方、口金10と着脱可能に連通されるプラグ15の一例が第7図に示され、このプラグ15は内袋用開口13と連通する連通路16と外袋用開口14と連通する連通路17とを有している。

次に、第1図乃至第9図のように構成した多重構造の袋体の作用について説明する。

内袋2及び外袋4にそれぞれ内容物を充填でき、即ち2種類の内容物を1個の袋体から取出すことができ、例えば内袋2と外袋4に原料シロップと希釈水と一緒に充填しておき飲用時に一定比率で取出せるようにできることからポストミックスドリンクの供給源にできる。

また、内袋2に流体状の内容物を充填した状態で外袋4に加圧流体（使用圧力0.2~2kg/cm²の気体又は液体）を充填してゆけば外袋4は次第



に膨脹してゆきこれに伴ない内袋2は加圧されて内袋2から内容物が加圧吐出される。そして、外袋4と内袋2を逆にして外袋4に充填後、内袋2を加圧することでも外袋4から内容物を取出しできる。

さらに、内袋2に保温又は保冷したい内容物を充填し、外袋4に断熱効果の高い物質を充填して内袋2の内容物を保温又は保冷することもできる。また、外袋4に気体を充填すれば内袋2の内容物のクッションとしても機能する。

次に、第10図乃至第12図を参照して本考案の他の実施例を説明する。

本実施例の多重構造の袋体1は、内袋2を並列的に複数個（3個）設け、この内袋2を外袋4で包囲することにより構成されている。そして、各内袋2に口金3が設けられるとともに外袋4に口金5が設けられている。

次に、第13図乃至第15図を参照して本考案の更に他の実施例を説明する。

本実施例の多重構造の袋体は3重構造からなり、

公開実用 昭和63- 123448



この袋体1は内袋2Aと、この内袋2Aを包囲している内袋2Bと、この内袋2Bを包囲している外袋4とから構成されている。そして、各内袋2A、2Bに口金3A、3Bが設けられるとともに外袋4に口金5が設けられている。

第1図乃至第15図の実施例では2重構造及び3重構造の袋体を示したが、本考案は4重構造以上の袋体を含むものである。

(考案の効果)

以上、実施例の説明から明らかなように本考案によれば、1袋に同時に2種類以上の内容物を充填し、且つ効率的に取出しできる多重構造の袋体とすることができる。そして、内袋に流体状の内容物を充填した状態で外袋に加圧流体（気体又は液体）を充填していけば内袋を加圧状態にでき、内袋の内容物を取出すことができ、或るいは外袋に充填後、内袋を加圧することでも取出しできる。さらに、内袋に保温又は保冷したい内容物を充填し、外袋に断熱効果の高い物質を充填して内袋の内容物を保温又は保冷することもできる。また、



外袋に気体を充填すれば内袋の内容物のクッションとしても有効である。なお、本考案はバッグインボックス用の袋体に特に有用である。

4. 図面の簡単な説明

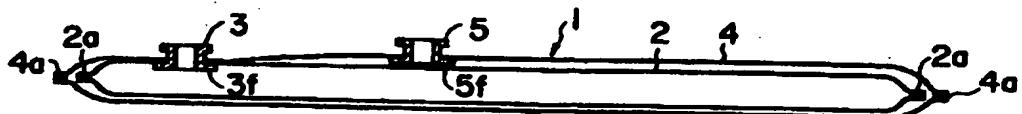
第1図乃至第3図は本考案に係る多重構造の袋体の一実施例を示し、第1図は縦断面図、第2図は平面図、第3図は第2図のⅢ-Ⅲ線断面図、第4図乃至第6図は本考案に係る多重構造の袋体の他の実施例を示し、第4図は縦断面図、第5図は平面図、第6図は第5図のVI-VI線断面図、第7図乃至第9図は本考案に係る多重構造の袋体の更に他の実施例を示し、第7図は縦断面図、第8図は平面図、第9図は第8図のIX-IX線断面図、第10図乃至第12図は本考案に係る多重構造の袋体の更に他の実施例を示し、第10図は縦断面図、第11図は平面図、第12図は第11図のXII-XII線断面図、第13図乃至第15図は本考案に係る多重構造の袋体の更に他の実施例を示し、第13図は縦断面図、第14図は平面図、第15図

公開実用 昭和63- 123448

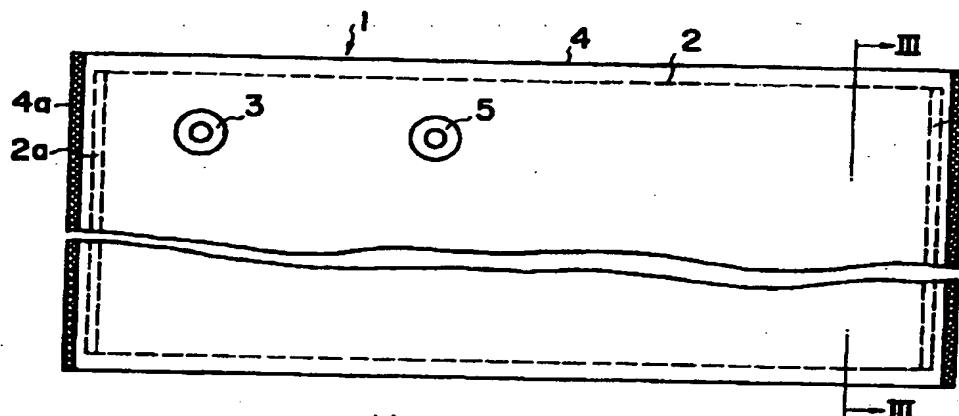
は第14図のXV-XV線断面図である。

1…袋体、2…内袋、3…口金、4…外袋、5…口金、10…口金、11…下部フランジ、12…上部フランジ、13…内袋用開口、14…外袋用開口、15…プラグ、16、17…連通路。

出願人代理人 佐藤一雄



第1図

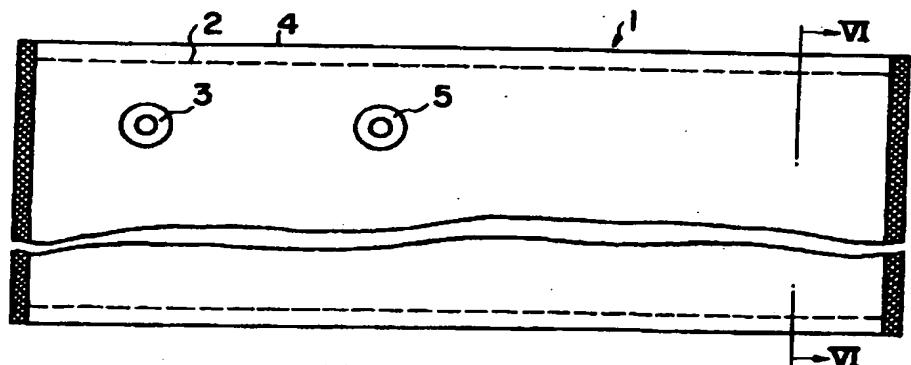


第2図

第3図



第4図

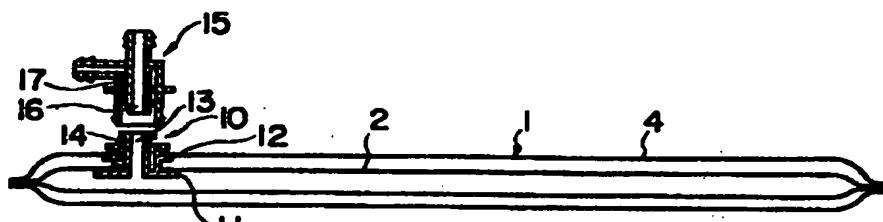


第5図 494

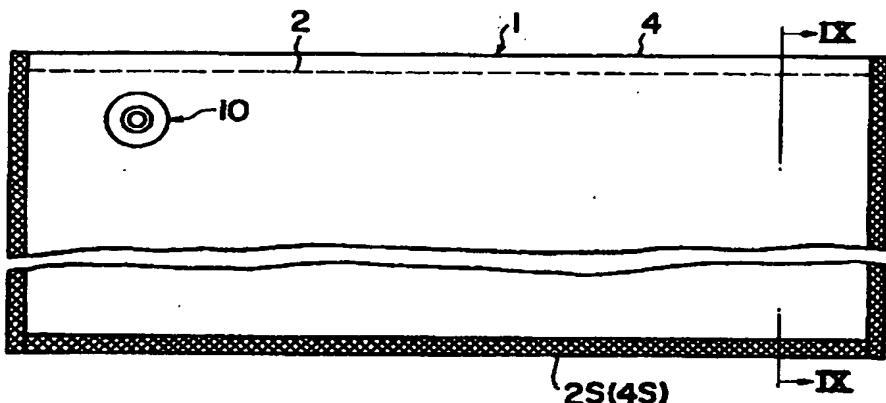
第6図

実開63-123448
実用新案登録出願人 藤原麦酒株式会社
上記代理人 佐藤一雄

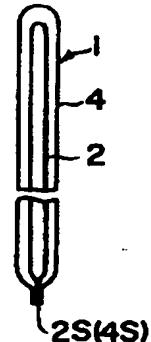
公開実用 昭和63- 123448



第7図



第8図

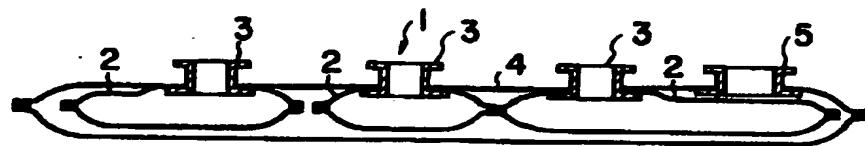


第9図

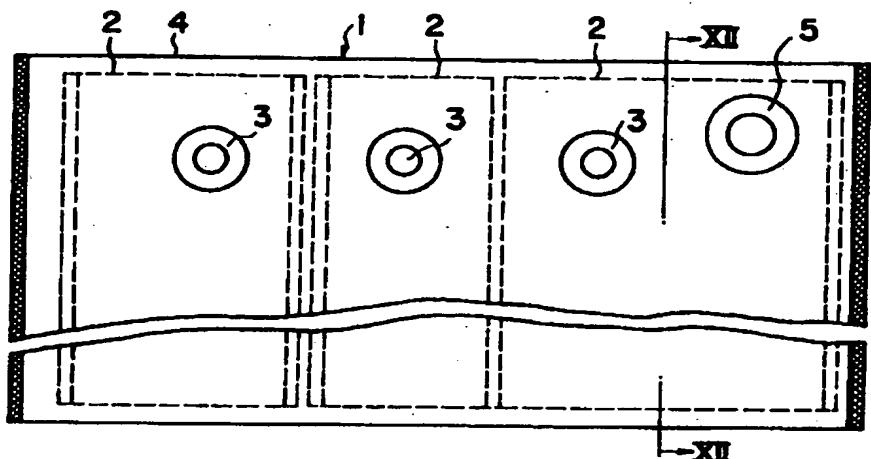
495

実開63-123448

实用新案登録出願人 藤井交響株式会社
上記代理人 佐藤一雄



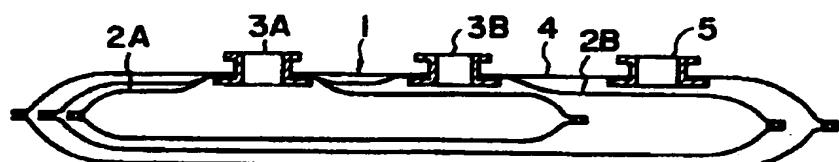
第10図



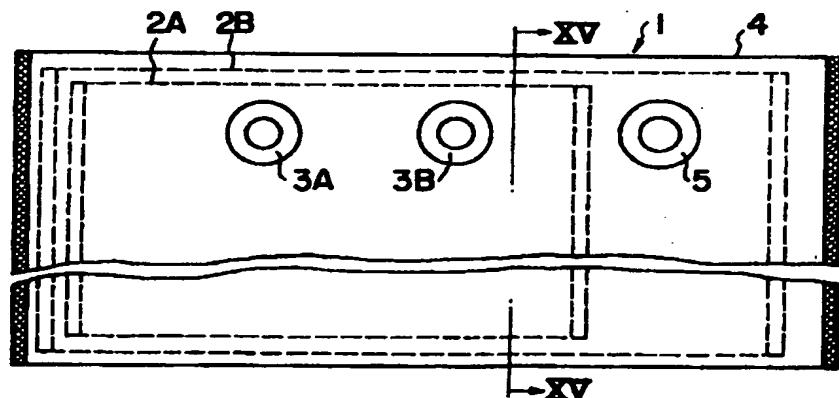
第11図



第12図



第13図



第14図



第15図

特許出願人：藤井酒株式会社
上記代理人：佐藤一雄
496 123448